



スルメイカ

冬季発生群

主な漁業と漁期

定置網:周年
釣:5月～翌年2月

生態

スルメイカは日本各地に分布し、発生時期の異なる冬季発生群と秋季発生群が生息し、太平洋側では主に冬季発生群が漁獲の対象となっております。本種の幼体は本州以南の暖水域に分布し、黒潮によって北方冷水域へ移送されながら成長し、また、成熟が進むにつれ北方から南方暖水域に回遊すると考えられています。

●産卵場・産卵期

冬季発生群:主に東シナ海で1～3月
秋季発生群:北陸沿岸～東シナ海で10～12月に産卵が行われます。

●食性

動物プランクトン、小型魚類、イカ類などを捕食します。

●成長・成熟

寿命は1年程度です。メスはオスに比べて体が大きくなり、オスでは9ヶ月程、メスでは10ヶ月程で成熟します。また、初夏に漁獲される外套背長20cm以下の小型個体はムギイカなどと呼ばれています。

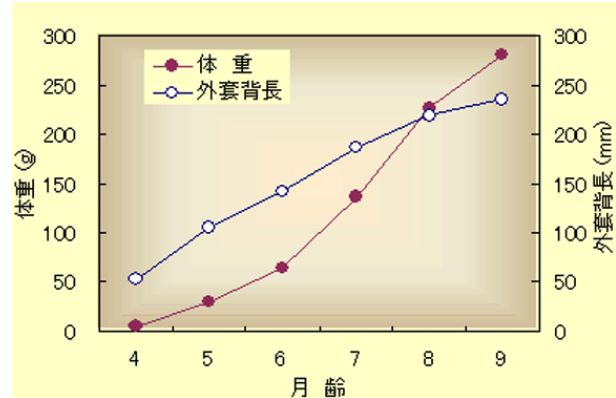
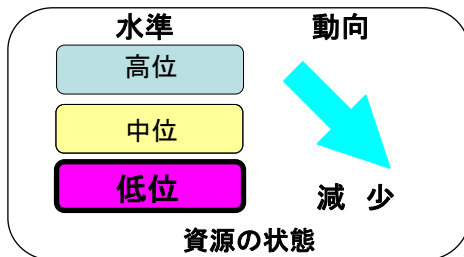


図 月齢と成長

漁業・資源動向

【資源】



- 1 冬季発生群の資源量は1989年以降増加し、1996年には133万トンまで増加しました。
- 2 その後、80万～110万トンの水準で推移し、2017年の資源量は21.7万トンと低位、資源動向は、過去5年間の推移から減少傾向であると評価されています。
- 3 現状の漁獲圧および親魚量を維持し、現状の資源水準を維持することが管理方策として提案されています。

《国の資源評価へのリンクはこちら》

ダイジェスト版

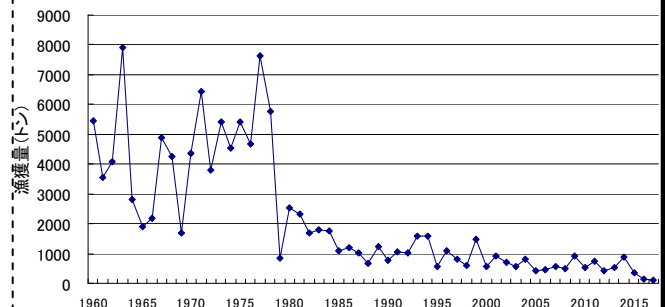
http://abchan.fra.go.jp/digests2017/html/2017_18.html

詳細版

<http://abchan.fra.go.jp/digests2017/details/201718.pdf>

【漁業】

- 1 静岡県では主に定置網や釣りによって漁獲されています。
- 2 定置網では冬、釣りでは夏に水揚量が多くなります。しかし近年は資源量減少の影響を受け、冬の定置網の水揚量は大きく減少しています。
- 3 県内の漁獲量は1977年以降、減少傾向にあり、昨年は100トンを下回りました。



静岡県のスルメイカ水揚量

担当者の一言:イカ類の中でも中腸腺(ワタ)が豊富で美味です。細かく刻んで刺身に付けたり、肝炒めにしても◎

問合せ先

静岡県水産技術研究所 伊豆分場 0558-22-0835